

## やまのこ保育園保護者と村長の懇談会

令和5年2月9日（木）19：00～20：00

やまのこ保育園

### 【本庄村長】

こんばんは。

お忙しい中、また寒い中でありますけども、お集まりいただきましてありがとうございます。私の孫もこのやまのこ保育園を卒園しており、6年前までお世話になってました。

今日の懇談会でありますけども、やはり小さな村でありますので、大きい市に比べますと行政というのが身近に感じていただいているというふうに感じております。しかし、このコロナ感染症もありましたので、村民の皆さんの顔を直接見ながら意見・提案をいただくこともなかなかないものですから、村民の皆さんが考えてることを、なかなかうまく吸収できてないのでは、と感じておりました。そんなこともあったものですから、今回こういった機会を作らせていただきました。私もあんまり喋ることが苦手な方ですが、ざっくばらんに本音の話が少しでもできれば、次につながると考えております。

いつも感じているのは、村民が主役ということです。主役の皆さんがあまり意見を言わなかったり、おまかせになって何か観客のように遠くから見てて、評価するというのも、あまりそういったのは違うのでは、といつも感じております。直接皆さんが良い悪いであったり、文句もしっかり言ってもらって、また汗をかいていただくところは一緒に汗をかいていただく。それが小さな村が考えていくことだなというふうに感じております。

今日は短い時間でありますけども、いろんなことを聞かせていただきたいと思いません。

全て答えられるわけじゃないものですから、宿題として持ち帰らせていただくものもあると思えますけれども、何でも結構ですので言っていただければと思えます。

### 【司会（藤沢課長）】

今日の懇談のやり方ですが、テーマを二つに分けさせていただきたいと思います。始めに、「子育て支援・教育関係」ということで25分程度でご意見をいただきたいと思っています。

その後ですね、「生活環境・その他全般」ということで25分程度で時間をとらせていただければと考えております。

全体で1時間程度で終了できればと考えております。

それでは、初めのテーマということで、「子育て支援・教育関係」でご意見のある方は挙手をさせていただきたいと思います。

#### 【保護者】

〇〇と申します。

山形村は、小さい村なので、コロナが始まった頃ですとか児童手当等、子育て世代に出していただき、今も副食費を減免していただいております。

それで、やまのこ保育園のいい保育をずっと続けていっていただきたいという思いで、親も、新しくやまのこに入ってくださいとお子さんと家庭を広げていきたいと思ってるんです。けれども現状、山形村のお子さんの数や、子育て世代が増えていくような取り組みっていうのは、どういったことをされているのかお伺いしたいです。

#### 【村長】

どもも少子化ということもあって、子ども、園児の数が減ってるというのはあります。どこでもそういう傾向はあると思うんですけども、ほとんどのお子さんは未満児で保育園に入ってくるというような時代になりました。

ということもあって、未満児さんはいっぱいなんですけども、未満児以外はやや減ってきてるのが現状ですね。やまのこさんにしても経営というものがあるものですから、その数を確保するということが課題になっていると思います。

その辺については山形保育園と絡みもあり、調整することもこれからますます必要になってくると思います。

それから、転入してくる方を増やしたいという思いがあるものですから、令和7年度までは、村外から転入して新しく家を建ててくれた方には50万円の奨励金（すまいる奨励金）がでます。これも賛否両論ありますが、今どこの自治体も人口の取り合いという状況になってまして、あんまりいい競争でもないと思うのですが、どうしてもそ

ういう傾向があるものですから、令和7年度までは、50万円を奨励金として出す。そういった方針をもっております。

【保護者】

子育てするには良い環境だと思います。それで、子そもが大きくなってきたときに皆さんが悩むのが、進学したときの交通手段です。その辺りはいかがでしょうか。

【村長】

山形村の子育て環境の中で一番弱いところといたしますか、その問題点というのは、山形村へ転入してきて良かったというのが最初の印象で、お子さんがいよいよ高校生になるときになって大変なところに来てしまったと後悔をするようなことも聞いております。

大きな課題なのですけれども、来年からは広丘駅へ直行便のバスを考えております。ただしそれを1年、2年やってみて、あんまり利用されないようだと運営ができませんので、PRをして、多くの方に使っていただきたいと思っています。

【保護者】

コロナ禍になって不登校の子どもが全国的にも増えている中で、発達障害と診断される子やその傾向にある子どもも増加傾向にあると思います。そういう傾向にあるという中で、学級の編成人数は、全国では、小学校は35人学級基準となっていたかと思いますが、国際的に見ても日本の35人という規模はまだ多いかなってというのが考えられると思います。例えば、フィンランドやスウェーデンにならって20人学級クラスにした場合に、学級の規律の安定だったり、発達の偏りのある子に教員がすぐに気付けるような環境になったり、その子に合わせた多様な学習方法に対応できるような形になっていくと思ういます。

発達障害の子は入学前に気づくことができれば支援学級に行く形になると思うんですけれども、気付かれずに入学した子というのは、担任の先生がある程度知識をお持ちでないと発見されなくて、その困り事を何年か続けて不登校になってしまうという事がかなり多いはずで。

まず、先生の増員というのは必須かなということと、教員の方が発達障害の理解と知識を増やしていただけると、子どもも安定的に学校に通えるんじゃないかなっていうふうに思います。

あと不登校になった場合、その子どもに関しては相談できる場所というのが結局学校と親だけなので、その家庭として相談できる所がないんですね。例えばその家庭に問題がある場合は、親が声を受け付けなかったりするけれども、このペアレントトレーニングだったりってものを、福祉の関係でサポートしていただける環境があればいいのかなっていうこと。その療育の先生がその学校の関係者と連携を持つことでも一ついいのかなっていうのも考えてはいます。

松本市の方では、普通障害の支援センターが構想されてますよね、小さい頃から高校生に至るまでの家庭内診という形で構想が組まれているかと思うのですけれども。そういう形で、子どもと家庭を支える、家庭の子育てっていう意味で行政の枠を超えた形で支援していただけるシステムがあると嬉しいなってというのが率直な意見です。その辺はどのようにお考えでしょうか。

【村長】

最初に出てきました少人数学級ですけども、今は1,2年生でやっております。それで少人数学級は全国の基準よりも下げた基準でやってはいるのですが、もっと下げられないかって話も出ております。クラスの、その集団の、30人でもうまい具合にチームができる場合もあれば、そうじゃなくて少人数でも学級崩壊に近い形になってしまうというケースもあったりすると思います。とは言っても少ない方が小学校の場合はいいいんだろうとは感じております。

小学校の問題というのは、教育委員会の管轄ですから、私も意見は言うんですけども、直接の権限というのは、教育委員会にありそこが判断をします。それについてはこういった意見があったということは伝えさせていただきます。

それから不登校であったり、支援学級の関係ですけども、支援学級は先生の力量にもよってかなり違うところがあると思っています。それで今いる先生は荒井先生ですけども、その方は本を出す位で、そういう研究をずっとやってこられて、支援学級一筋でやってきている先生ですから、非常に子どもたちのことを良くわかっていただいでいて、支援学級の運営についてはすごく恵まれていると思っています。

学校に入る前の保育士だとか、そういういろんな立場の方との連携が必要になるので、情報を共有しながらやる事が大事で、山形村の場合は中学になると組合立になるという事もあって、どうしてもそこでまた一つの壁があるというのは現実だと思う。そういうことがあるので、そこはかなり意識して教育委員会であったり、保健師さんであったり、気を付けていただくようお願いしていきたい。

それから不登校は、長野県内では5～6%位という割合だったと思いますが、山形村は長野県下でもトップってようなそういう時代もありました。最近は平均並みとなっていたかと思いますが、山形村は不登校が比較的多い傾向かと感じています。

一番大事なことってというのはお父さん・お母さん方を支える地域であったり、そういうところで、補完できるような環境だったり、そういったものを用意しておく事が大事だと思います。

そういう問題というのは言っていたかないと多分伝わらないと思いますし、特に不登校とか支援学級の関係は、言いにくと思いますので、その辺は勇気を持って言っていたくようお願いしたいと思います。

**【保護者】**

〇〇と申します。

私自身も今はフルタイムで働いていて、子供も2歳になってから保育園に預けているのですが、山形村にも病児保育っていうのをつくっていただきたいなと思っている。

皆さん、仕事をされてる方は、それぞれお仕事の内容も違うと思うんですけども、私自身休めるときは、仕事を休んではいるんですが、どうしてもちょっとその予定で休めないという日がありまして、今はコロナ禍なのでなかなか利用が難しいのですが、コロナ前は、岡谷市に小児科の専門でやっている病院にはなるんですけど、病児保育をやっている病院がありまして、看護師さんが子どもの熱とか1日の様子とかも詳しく書いてくれて、預かってもらいとても助かったというのがありました。

その時は主人の仕事もあり、岡谷市で預けていたのですが、家の近くにあると大変助かるなと思っております。その病児保育の計画とか、何か考えがあったりするんでしょうか？

**【村長】**

病児保育ですけども、やっぱり病院であったり、医院であったり、そういう所とのからみもあるものですから、簡単にできるというわけではないんですけども。昨年くらいから、松本市と協定を結んで、松本市の方で病児保育も受けられるようにしてあります。全て希望通りかどうかは、そのときの経済状況もあるんですけど、病後児保育は、子育て支援センターで始めていますので、そちらをご利用ください。

**【保護者】**

〇〇と申します。

先ほどお話で出た不登校の問題でもう一つだけ要望なのですが、私自身の子どもが中学生に1年ほど不登校になりまして、その間は家にいるという生活なのですが、村外は不登校の子が来ていい場所というのがあるんですけど、村内には、そういう居場所が今の時点ではないと思います。

小学校であれば、校内に、教室に行きづらい子が行く教室もあると思うんですけど、それも校内ではなくて、校外にあるといいのかなというふうに思っています。

私の子どもは中学生だったので、毎日仕事には行けていましたけれども、中学生でも難しい場合もあるだろうし、小学生になるとなおさらやっぱり子どもが学校に行けなくなると親は仕事に行けなくなってしまって。私自身は、子どもに居場所があるというのが一番ですが、その次に、不登校の子を抱えた親が、例えばシングル家庭だった場合に、お母さんも仕事を休むしかなくなって、収入が減って生活が苦しくなるといってもニュースで聞いたりしますので、親の支援、子どもの支援という両方の意味で、不登校の子のための居場所が村内にあるといいと思っています。

【村長】

不登校の子の居場所という事ですけども、山形でもこの4月からトレーニングセンターで、「第三の居場所」という事業に取り組みます。不登校に限ってではないんですけども、子どもたちの居場所ということで、学校でも家でもない第三の居場所というようなことを取り組んでいきます。不登校の場合、1人とか2人だと、出てきにくいけれど、ある程度集団になったりすると、出てくる子も、ある程度楽しいというか、出てき甲斐もあるんじゃないかと思う。ただそこに場所だけ作ってもしょうがないので、仕掛けなどを考えて、私自身は以前に教育委員会でそういった事をやったことがあるのですが、その時は、不登校のお子さんとサッカーやったりとか、そういう事をやったこともあります。お子さんに合わせて何がいいか、やり方を考えながらやっていくことが大事だと思っていますので、またぜひ不登校の問題なんかは相談をしてもらう、それをまず教えていただきたい。

【藤沢課長】

その校外の居場所がある、という場合は、やはり何らかのスタッフと場所があるということですか？

【保護者】

学校内にある中間教室的なものがあるんですね。学校内にあるので、不登校の子はどうしても、人の目が気になってしまって、正面玄関からは入れなくて、給食室の方から入ったり、全校生徒と時間をずらして入ったりするので、校内にあるという事で、既に問題を抱えてるっていうことがあって、対応される先生もお1人なので、何人か子どもが来ると、対応も大変だと思う。

小さな問題かもしれないのですが、内線電話がないんですよ。なのでその先生に電話したくても電話が繋がらなくて、職員室に先生が行ってかけなおしていただく形なので、この辺も改善いただけると、ありがたいです。

【村長】

学校は行かれないけど、違う教室なら行けるといってお子さんもいれば、そもそも学校へは行かれない、行きにくいというお子さんもいるもんですから。

4月から始めるのは、「学校でもないし、家庭でもない、そういう子どもの居場所っていうものを作りましょう。」という発想のものです。ですので、学校へ行けないようなお子さんを対象にそういうことをやりましょう、面倒をみましょう、そういうことを考えている。

不登校のことで一番感じてるのは、やっぱり学校教育ってのは、画一的な、一律の教育で、一斉にやる、そういった教育でありますので、やっぱり不登校になるお子さんというのは非常に感性が豊かで優秀な方であると傾向として感じてます。

なかなか理解されにくいところをわかってくれる大人がいないと、適切なその子に合った教育にならないだろうと感じています。

<子育て関係の質問はここまで、以降は生活環境・その他 >

【保護者】

〇〇です。

地区の常会についてなんですけど、私が山形に転入してきたのが4年前で、その前に松本に住んでたときも常会や地区の会っていうのは、一応入るのが当たり前みたいな風になってるみたいなんですけど。転入をしてきた時も、役場の人とやり取りをしたときも、強制ではないけど、普通は入りますみたいな感じだったと思うんですね。細かい

ニュアンスまではきっちり覚えてないですけど。コロナ禍になる前は、常会に入らず、回覧板とかが回ってこない、小型家電の回収とかそういうものがわからなかったりっていうのもあって、その時はまだ入ってないと分からないのかなっていうのはあったんですけど、今はもうカレンダーにそういう記載をしてくれているので、常会に入っていないと情報を得られないというのほぼ無くなっているような気がします。実際に自分の周りに住んでる方も、やっぱり小学生までのお子さんがある家庭は結構入ってて、小学校卒業すると抜けてる方が多いみたいで、実際にイベントごとっていうのもコロナの影響もあって減ってるので、もし常会に入っていない状態で何が不便で、入ることによっての利点というのがちょっとわからなくなってきた、常会に入ってることで、こういうことが生活していく上で役に立ちやすいとかいう事を役場の方たちから教えてもらえたらありがたいなと思います。

【村長】

常会やコミュニティーという話なんですけれども。役場でもきちんと答えられる人が村長をはじめ誰もいないっていうのは正直なところで、非常に大きな問題だと思います。六、七年前にNHKの番組で、町内会が消えるっていう特番があったんですけど、最近、聞いた話ですと、東京都の組織率、自治会加入率は50%を割ってると思いますし、高松市でも常会に入ってる方が半分以下になっている。静かにそれが進んできてるという事だと思います。山形村も昔から、私くらいの年代の上の方や、我々の同級生もそうなんですけど。私はこういう仕事させてもらってるもんですから、比較的世の中の動きなんかも気にしてみているのですが、同級生なんかと話をしていると、だいたい、常会に入らないなんてとんでもないって話に必ずなって、その話をずっとしてると喧嘩になりますから、途中でやめるんです。やっぱり世代間の対立はあり、40代くらいの方はもう全然違う。うちも息子がちょうどその年代なんですけど、大体この話をするとやっぱり喧嘩になるものですから、もう途中でしないことにしてるんです。どっちが正しいかなんて分からない話ですから、答えというのはなかなか……。山形村ができてから、今年で149年で、来年は150周年になるのですが、その歴史の中でも、昔は今よりも戸数も少なく、人口も半分位だったのですが、その頃はみんな農民ですから、みんな同じ価値観で、同じ生活のレベルで1年を生活してるので、お祭りをやるにも、その祭りをやることに反対だという人が仮にいても言えなかったし、またそれが当たり前だと思っていた。今はやっぱり多様化の時代ですので、イベントをやるにもそれに賛成の人もいれば反対の人も当然

いる。それが当たり前だというものですから、一つの価値観で何かを動かすということとはできなくなるだろうと思いますし、あんまりそれを締めると、山形村は住みにくいという事で、自分たちも、子どもたちもどんどん出て行っちゃう。すると、山形村はますます人口が減ってしまいますから、そういうことがないように住みやすくしなきゃいけない。住みやすいという事の中には、やっぱり隣近所の仲がいいことが一番いいと思う。

あんまりルールを作っちゃうと価値観が違いますから、賛成反対だとか、それはおかしいとなりますので、できるだけルールは少なくして、集めるお金もほとんどないくらいにして、「住みやすい」というのを作らなきゃいけないと思っています。

地区のお祭りだとかそういうことに対しては、村長はいろいろ言うことができない話なものですから、そこはうまい具合に伝えていって、緩やかな繋がりというか、そういう隣組みたいなものは、これからのコミュニティのあり方じゃないかと感じております。ただ具体的に何をやるかっていうのはまだ決まっていません。

今年も区長さんたちと8回そのことで話をしましたけども、ずっと平行線のままで1年終わりました。まだもう1回話をする機会があるのですけれども、やっぱり区長さんたちも70、50代で、自己否定するようなことをなかなかできないっていうのは現実だと思います。自分がやってきた歴史みたいなものは、守っていきたいっていうのはあると思います。

#### 【保護者】

〇〇と申します。

車社会っていうのも分かるんですけど、家から図書館までちょっと行こうとすると、道が歩きづらくて、もっと歩きやすい道があったらいいなとか、中学生を見てても、もうちょっと自転車が走りやすい道とか、気持ちのいい道があったらいいなと思います。

もう一つ、お昼の11時半のサイレンが、自分は怖くて、音楽とかにしてもらえたら心和むなって。子どもがちっちゃいと昼寝中にサイレン鳴って起きちゃったりとかいうことがあって、違う音楽だったらいいなって思っています。

#### 【村長】

サイレンの話ですが、昔からいる、特に農家の人たちにとっては、あのサイレンが11時半に鳴って、それで午前の農作業が終わって帰ってくる。あれが一つの合図みたい

な感じで、ずっとをれが身についている。そう感じてる方が多いということと、鳴って当たり前って生活している、そう感じている方がいるというのが実情です。昔は朝6時半にも鳴っていたのですが、10数年前に、非常に評判が悪くてやめた経緯があります。その時も役場にはかなりクレームがあったと聞いております。サイレンとは何かとちょっと考えた時に、何か緊急事態が発生したということでサイレンが鳴るととられる方が多いと認識しております。これは皆さんの代表である議員の皆さんにも感想を聞いてみようと思うんですけども、全員がいいとは当然然らない。何人かがやめた方がいいって話が出ればやめられるかなと思います。

【保護者】

やめてほしいじゃなくって、サイレンじゃなくて違う音楽とかはどうかと。

【村長】

音楽だと2キロ飛ばすことは多分無理だと思うので、サイレンの高い周波数で遠くへ飛ばせていると思う。

歩道についてですが、これは歩道があればいいということですか、それとも道路を歩道として歩きたいという事でしょうか。その辺はまた考えていきたいと思います。これからはそういう歩く健康のための道路・歩道というものも考えなければいけない時代になると思います。研究します。ありがとうございます。

【保護者】

ちょっと周りから聞こえた声なんですけども、ちびっこ広場とテニスコートをつなげている橋が前はあったそうなんですけれど、今はそれが壊れているのか、ちょっと通れない状況のようで、危ないので手を加えていただきたいと思います。

村外からの転入にしても常会への加入にしてもそうなんですけど、やっぱり魅力が見出せないとなかなか難しいので、山形村の、例えば自然を生かした、清水寺への登山道を整備するとか、キャンプ場を作るとか、そういった山形村の自然環境を生かした魅力的な取り組みをしていただけるといいのかなと思います。

【村長】

ちびっこ広場の橋なんですけども、4年位前ですかね、だいぶ老朽化して危ないってことで撤去しました。担当課の話だと、使う人もほとんどなくて、どうなんですかねってことでちょっと様子見ていきましょう、ということで撤去だけしたというのが現状

です。来年度いっぱい位でちびっこ広場のトイレも整備したりして綺麗になります。使ってもらえば、またそういう需要も出てくる可能性もあると思います。それから、それぞれの地域の隣組の付き合い方の魅力というんですかね、そこにいる皆さんがそうやって考えてもらうのが一番だと思います。ただし裏では、例えばこんな補助金があります、そういったことは誘導していくようなことはやらなきゃいけないとは思っております。

#### 【保護者】

図書館ですけど、今の図書館が小さくていろいろ利用しやすくてすごくいい図書館だになってというのは思うのですが、例えば中高生になったときに子どもたちがそれぞれに集まる場所だったり学習する場所ってというのがあまりにも少ないのかなって印象があって、できれば子どもがある程度大きくなってからも集まれる場所ってものを提示していただけると嬉しいと思っています。

#### 【村長】

子どもたちが集まれる居場所みたいなことですが、今は、複合施設ということで、図書館と伝承館とそれから子ども達の居場所を兼ねる公共施設を研究しています。来月の16日に、内容がまとまって、村長にこういう内容でどうかという答申があるというスケジュールで聞いております。子育て支援環境であったり、山形村が住みよくて、文化的にもある程度魅力のある所にするには、そういった公共施設も必要かなと感じています。ただし一番私が心配してるのは、村民の皆さんがそういったものを本当に必要と感じてるかどうかというところがなかなかわかりにくい。今それを研究してもらっている。

役場が、松本の中心地程とは言わずとも、ある程度文化的なものにも触れることができたり、塩尻のえんぱーくのような、中高生もミーティングできるようなスペースがあればいいなとそういう事を考えています。

#### 【保護者】

今の複合施設ですが、そこに子ども食堂を入れていただけると嬉しいなと思います。子ども食堂って名前じゃなくて、誰でも行けて、地域でおいしいお野菜も採れますし、「わっこさん」でやってくださってるあれがもうちょっと回数が増えたり、子育て世帯の仕事帰りに子どもと一緒にちょっと寄ってご飯食べれる、そこが週1回ある

と助かりますし、そこはもう誰でも来て良くて、ご年配の方でも、ちょっと顔会わせて話ができたりするような、そういうところを複合施設に入れていただけるといいです。

【村長】

こういったものがある、そういったものが入るっていう話は、スケジュールから言いますと、来年度から再来年度くらいにワークショップみたいな、何回かそれを繰り返して具体的にしていくスケジュールなっております。またそういった意見はホームページなどで書き込めると思いますので、ぜひチェックしてもらえればと思います。

【藤沢課長】

複合施設は現在、基本構想で、こういった目的で、こういったものを作りますというのが示されていて、それに対する皆さんのご意見をいただく。そういったものをしていました。それは1月の下旬に締め切られて、そこでまとまった意見は、この2月に村長に答申として出されて、村長が判断をしていくというような手順だと思いますので、ぜひアンテナを高くしていただいて、皆さんのご意見は本当に貴重ですから、今LINEもお友達登録していただければ何でも言える環境を作ってますし、ホームページも全部出せる状況を作っていますので、ぜひとも行政に興味を持っていただけるとありがたいと思います。

<終了>

【村長】

1時間という本当にあの限られた時間でしたので、たくさんの意見ともいかなかったんですが、今、村で考えてることを少し分かっていただけたのかなと思いますし、言ってみれば何か道も開ける、みたいなものがあります。どうせ言っても村長は何もわからないから何も言わないというより、やっぱり言ってもらってということが一番大事だと思います。またこれに限らずどんなことでも結構ですので、いろいろとにかく注文を出して頂いて、先ほど申し上げましたけれども、主役の皆さんが、いろいろ文句を言っていたかかないと、行政の質も上がりません。

協力してもらうことも当然出てきますので、その時はできる範囲で結構です。そんなことで今後もよろしくお願いします。